

①事業名	【66】美術館・博物館支援方策 策定事業 ～まちに生きるミュージアム構想～	
②主管課及び関係課（課長名）	文化庁文化財部美術学芸課（課長：下坂 守）	
③施策目標及び達成目標	<p>施策目標 8-2 文化財の次世代への継承・発展 達成目標 8-2-3 文化財の特質やその適切な保存に配慮しつつ、多様な手法を用いて国民にわかりやすい形でその公開・活用を促進する。</p> <p>（関連） 施策目標 8-1 芸術文化活動の振興 達成目標 8-1-4 地域の特色ある文化の力（「文化力」）を様々な分野に活用するとともに、地域と芸術家・芸術団体の連携による新たな芸術活動を展開することにより、地域における文化芸術活動を活性化させる。</p>	
④事業の概要	<p>本事業は、国内外の美術館・博物館の管理運営状況について調査・分析を行い、今後の運営手法等について、外部有識者の意見を聴きつつ、検討を行い、公立館の管理運営に資するため、ガイドラインを作成するものである。</p> <p>また、ガイドラインの作成にあたっては、新しい管理運営手法を取り入れた「パイロット事業」を行い、その成果を検証し、ガイドラインの内容に反映させるものとする。</p>	
⑤予算額及び事業開始年度	平成18年度概算要求額：30百万円（新規） 事業開始年度：平成18年度	
⑥事業開始時において得ようとした効果	〔拡充事業の場合のみ記入〕	
⑦得られた効果	〔拡充事業の場合のみ記入〕	
⑧得ようとする効果及び上位目標との関係	<p>【得ようとする効果】 美術館・博物館の今後の運営手法等に関するガイドラインが全国の美術館・博物館における管理運営の在り方の検討に資する。</p> <p>目標値 ガイドラインが全国の地域及び美術館・博物館の管理運営に活かされ、地域の実情に即した魅力ある館経営が実施される。</p> <p>【上位基本目標・達成目標との関係】 本事業の効果をあげることにより、①地域及び美術館・博物館において、文化活動が行われる回数の増加、②ボランティア参加人数の増加、③地域及び館で実施される文化教育プログラム活動の開催増、等が図られ、美術館・博物館が地域の文化の中核として機能していることとなり、ひいては、文化による心豊かな社会の実現を築くこととなる。</p>	<p>⑨達成年度</p> <p>平成20年度末 （パイロット事業を実施し、成果を検証して、ガイドラインの内容に反映させる必要があるため、3ヶ年を目途としている）</p>
⑩必要性	施策目標 8-1・2の目的を達成させるには、地域の美術館・博物館が地域文化の拠点として機能することが必要であるが、地方自治体の財政難・地域コミュニティの弱ま	

	りから、地域の自治体だけでは現在の厳しい状況である美術館・博物館の改善に対応できない。また、国の施策として全国の美術館・博物館の状況を見ながら、管理運営に有効なガイドラインを示し、支援をしていくことが、地域の文化振興に寄与すると考えられる。このことから、本事業の施策目標に対する貢献度は高く、本事業を実施することは妥当と考えられる。
⑪効率性	<p>【事業に投入されるインプット（資源量）】 本事業の予算規模は30百万円（平成18年度）である。</p> <p>【事業から得られるアウトプット（活動量）】 本事業の実施により、ガイドラインの発行・パイロット事業の実施による入館者の増大が見込まれ、ひいては地域及び美術館・博物館で文化活動等が活発に行われることとなる。</p>
⑫想定できる代替手段との比較考量	そもそも、美術館・博物館の運営等に対する在り方のガイドラインは存在せず、代替手段は想定し得ない。
⑬ 指標・参考指標 効 性	<p>【指標】 全国の公立美術館・博物館うち、本事業の成果を活用して管理運営の手法を導入した館の割合・本事業の効果により増加した入館者数・ボランティア人数、全国諸地域及び館での文化活動・教育プログラム活動数</p>
	<p>効果の把握の仕方 本事業の効果は、上記の指標について協力者会議での評価結果で把握する。また、地域の美術館・博物館及び入館者に対してアンケート調査を実施することにより具体的に把握する。</p>
	<p>得ようとする効果の達成見込み及びその判断根拠 ガイドラインの普及により、地方の美術館・博物館が活性化し、地域文化活動が盛んとなることを見込んでいる。また本事業の効果として、美術館・博物館の入館者が増え、それが人々の文化に触れあう時間が増大することとなるため、文化による心豊かな社会の実現を図ることができると判断。</p>
⑭公平性、優先性	<p>[政策の特性に応じて、必要により評価]</p> <p>パイロット事業実施館が優先的に事業効果を受けることとなるが、その成果を検証しガイドラインの内容に反映させて、当該ガイドラインを全国に普及することとしているため、公平性は保たれている。</p>
⑮評価に用いたデータ・情報・外部評価等	
⑯備考	

# 美術館・博物館支援方策 策定事業 ～まちに生きるミュージアム構想～

**目標** 地域文化の中核として、施設や運営全体が地域に開かれ、常に人々が集い、人々に親しまれる魅力ある空間を提供し、またそのことにより地域に支えられ、地域とともに発展していく美術館・博物館を構築する。

ミュージアムを拠点とした、豊かで住みよい「まち」へ

## 地域を取り巻く現状と美術館・博物館の課題及び期待される役割

- |                           |                                   |  |
|---------------------------|-----------------------------------|--|
| ・地方自治体の財政難<br>・指定管理者制度の導入 | ・厳しい館の運営による活動の衰退<br>・地域コミュニティの弱まり | ・地域住民の文化芸術活動の場としての積極的な活用<br>・学校等との連携による学習の場としての機能の充実 |
|---------------------------|-----------------------------------|--|

## 協力者会議において検討

### 調査

- ・国内外の美術館・博物館の実情を調査
- ・現場の担当者からの声を聴取

### 方針の策定

- ・美術館・博物館の今後の在り方
- ・教育普及、国際交流等の事業についての在り方

## パイロット事業の策定

### パイロット事業の企画

学校、他の文化施設、企業及びNPO等と連携・協力しつつ行う教育普及事業、国際交流事業等を企画  
(地域の中核拠点として位置付け)

支援

美術館・博物館による実施

成果

学ぶ意欲の向上  
国際文化交流の推進  
地域文化活動への参加意欲の向上  
地域に密着したミュージアム活動の充実

